

光機能材料研究会 第61回講演会
有機ELの最新技術・材料開発と市場展開

日時：2017年2月7日(火) 13:00~17:00 (受付12:40)

場所：東京理科大学森戸会館 地図：<http://www.tus.ac.jp/facility/morito/>

参加費：非会員8,000円(当日現金払い) 光機能材料研究会会員(3名まで)無料、学生無料(予稿集別途)

申込先：光機能材料研究会事務局 FAX:04-7122-1742 予稿集：受付にて配布いたします。

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学光触媒国際研究センター内

「開催にあたって」有機ELは、高精細・軽量などの特徴を生かし、スマートフォンでの採用をきっかけに急速に市場を拡大し、材料開発に強い日本企業が活躍しています。こうした有機ELの最新技術・材料開発と市場展開に焦点をあてて第一線でご活躍の研究者・技術者の方々にご講演頂きます。

=プログラム=

13:00 開会にあたって 光機能材料研究会会長 藤嶋 昭(東京理科大学学長)

13:05-14:05 熱活性化遅延蛍光材料の最前線とOLEDへの展開 九州大学 安達千波矢

従来、エレクトロニクスはシリコン半導体を基礎とした無機半導体によって、その機能発現が支えられてきました。その一方で、新しい可能性を目指して、無限の分子設計が有機パイ電子系化合物を用いたエレクトロニクスに大きな注目が集まっています。特に有機発光ダイオード(OLED)は、その優れた発光特性から次世代の情報表示端末、大型TVや照明用として大きな期待が寄せられています。本講演では、九州大学で開発された熱活性化遅延蛍光(TADF)による新しい発光機構を用いた第三世代OLEDの現状と今後の展開についてお話しいたします。TADFは有機化学、計算科学、物性物理の連携により研究開発が大きく進展し、現在では、量子化学計算を用いた精密な分子設計によって100%の電気-光変換が可能となりました。

14:10-15:05 有機ELの劣化機構の解明と長寿命化対策(仮)

(公財)福岡県産業・科学技術振興財団有機光エレクトロニクス実用化開発センター 藤本 弘
有機EL素子劣化の外的要因として、有機材料由来の不純物及び真空チャンバー内に存在する不純物が影響していることを明らかにし、更なる劣化機構の解析を行った。また、チャンバー内の不純物については、素子製作時間が長いほど付着する量が増加するため、長寿命化対策として製作時間の短縮が有効であることが分かった。

15:15-16:00 次世代照明に向けたフレキシブル有機ELデバイスの開発

コニカミノルタ(株) OLED事業部 開発部長 府川淳一

有機EL照明が市場に浸透していくには、発光効率、発光寿命等の基本性能の向上、コスト低減はもちろんのこと、既存の照明では出来ない、有機ELならではの新しい顧客価値を創出し、差別化していくことが現時点において非常に重要である。「薄さ」「軽さ」「しなやかさ」をキーワードに、フレキシブル有機EL照明を追及してきた弊社の最新技術開発状況を、実用化動向を交えて紹介する。

16:05-16:50 有機EL照明のイマとコレカラ TOKYO DESIGN PARTY 長根 寛

新しい光でどれだけワクワクドキドキできるか!

日本の有機EL照明産業は盛り上がるようで盛り上がらない。

素晴らしい技術でこれからの光の一つとして誰しもが思っていることだがなかなか採用に至らない。

「まだ、いいかなあ〜」の声が照明業界に蔓延する。それはなぜか?

照明デザイナーの立場から、有機EL照明のイマとコレカラについて語ります。

16:50 閉会にあたって 光機能材料研究会事務局

「参加申込書」(準備の都合上、2月1日(水)までにお申し込みください。定員になり次第締め切り。定員満たない場合当日受付可)(受付確認のご返信はいたしませんのでご了承ください。直接会場にお越しいただければ幸いです。)

資格	<input type="checkbox"/> 非会員(8,000円)	<input type="checkbox"/> 会員(3名まで無料)	<input type="checkbox"/> 学生無料(予稿集別途)
社名			
所属			
氏名(ふりがな)			
住所	〒		
FAX		TEL	
e-mail			

F A X : 04-7122-1742